

豊かな心の持主

宮下 伸(文科省中教審専門委員、箏曲家)

作曲家・長澤勝俊さんには、1970年代「反核日本の音楽家達」の会合で共演した沢井忠夫さんと共に会い、平和、芸術家の責任について話し合った。真摯で真面目な賢人だった。1988年、正月放送録画撮り「萌春」の演奏後、涙して握手する優しい柔和な人である。その後NHK邦楽オーディションの審査員も一緒に、ジャンルを超えた地球規模の音楽について語り合った静かな口調の長澤さん……さようなら

「子どものための組曲」

宮田耕八朗(日本音楽集団創立団員)

日本音楽集団第一回演奏会で初演したこの作品については、何度言っても言い足りないほどの衝撃と喜びがあった。それから7年後、北軽井沢において尺八・箏・三絃の愛好者が集い、合宿練習をした時のこと。パート練習の後、参加者全員によってあの第一楽章が響き始めた時、「あゝ、この作品がようやく私たちの手から飛びたつた。もっと大きくなれ、もっと大きくなれ」と叫びたかった。あの感動は今思いだしても胸が熱くなるのです。

「子どものための組曲」

宮本幸子(正派邦楽会)

音楽集団第一回演奏会に向け合宿を行いました。休暇中の小学校の教室、子供用の小さな椅子に座っての「子どものための組曲」。冒頭の可愛らしく弾むようなリズム、今思い出しても心が踊ります。親しみやすい可愛いメロディーと哀愁に溢れた美しい部分、そして律動的な合奏部分。今後も多くの方が好んで弾いて行くことでしょう。私も書いて頂いた「十七絃の為の四つの前奏曲」を大切に、若い人達に伝えて行きたいと思っています。合掌

合掌

村岡 実(氣功尺八)

長澤さんより約四ヶ月先に生まれている私は、集団の第一回発表会の練習の時、ツイこぶしを入れて演奏したのを長澤さんに注意され、芸術的感覚を教えられたことを今だに一番の記憶として時折思い出しては、当時のことを懐かしんでいます。それにしても、長澤さん!少し早かったんじゃないでしょうか。まだまだ立派な曲を創られたのに、残念です。今では、人生九十年、イヤ百年とも云われている時、残念です。…合掌。

今様モーツァルト

望月太八(横笛奏者)

長澤先生との出会いは入団時でした。当時は長澤先生・三木先生が好対照な作風で作曲されて居り、長澤先生のピュアな音には感動致しました。長いお付き合いでしたが、決して作風を変えない事(妙に小細工しない)は凄く処だと思いました。どの曲も半音を使わず作曲する事は希有なことです。モーツァルトの様に生涯作風を変えない、何時聞いても長澤先生の曲と分かることは素敵な事です。天上の音!どうぞ安らかに!

温顔よ永遠に・・・

守谷幸則(株式会社邦楽の友社社長)

第一生命ホールで長澤先生を囲む会があった。日本音楽集団が中心だったが取材を兼ねて私も招かれた。まだお元気な頃で先生の温顔を写真に撮って邦楽の友誌に掲載した。あれは何年前のことだったのか。掲載誌を探してみたが、こういうときに限って見当たらない。作品には人柄が出るという。長澤作品のファンはそのお人柄にも魅せられているように思う。長澤先生を思い出しながら今日はあの温顔を偲びたいと思っている。

長澤勝俊先生を偲んで

矢崎明子(箏曲演奏家)

皆に愛され親しまれるメロディー、心に沁みる名曲の数々を残して下さった先生。泉の如く湧きでてくる作品も遂に生まれなくなり本当に残念でございます。「春三題」では私の家までお出でいただいたの熱のこもったレッスンが貴重な尊い思い出となりました。また宮城道雄記念コンクールの審査員としてご一緒させていただき適切なご批評が心に残っております。私も委嘱の曲をとお伝えしたのみで実現できなかったことが何より悔まれます。

「人形風土記」

柳家小三治(噺家)

あのLPをどういふきっかけで買い求めるようなことになったのか。どう考えても思い出せない。レコード屋の店頭であの表紙の人形ニポポに惹かれたから、そんな格好のいいことは言えない。じゃ、何故?やはり思い出せない。一体誰が私を「人形風土記」や長澤勝俊に引き合わせたのか。雑誌「レコード芸術」?・・わからない。ともかく私には、長澤勝俊と言えば「人形風土記」なんですから…、こだわります。



思い出

山本邦山(人間国宝)

私が初めて先生にお会いしたのは、日本音楽集団結成時の演奏会で「子どものための組曲」に出演した時のことであるから、もう何十年になろうか。

その後NHKオーディションの審査員では何度も先生と御一緒させて頂いた。とにかく優しく思いやりがある方で、私には常に笑顔で接して下さった記憶が今も心に残っている。

長澤さんとの思い出

横山勝也(東京音楽大学名誉教授、国際尺八研修館館長)

長澤さんとのお付き合いは、25才頃、村岡実氏・宮田耕八朗氏とのモダン尺八トリオ、転じて東京尺八三重奏団の活動の際、作品を通じてでした。最後にお目にかかったのは数年前ご一緒した全国小中学校音楽コンクールの審査員で、審査も思いやりのある温かいものでした。多くを語らず、温厚でもの静かな方でした。話する機会は少なかったのですが「子どものための組曲」等から氏の優しさ、ロマンチズム等を推測するばかりです。

